



平成31年度青森プロボノチャレンジ 実施報告書

2020年1月31日



目次

1. 実施概要

2. 青森プロボノチャレンジについて

3. 支援先と成果

4. プロジェクト後の変化や影響

5. 特色と課題

1. 実施概要

- 1.1 事業の目的
- 1.2 事業概要
- 1.3 プロボノとは
- 1.4 プロボノによる支援の位置づけ

1.1 事業の目的

- 青森県では、県民の誰もが、地域で生まれ、地域で育ち、地域を助け、地域で安心して暮らしていくことができる「青森県型地域共生社会」に向けて、NPO、地縁組織、企業などの多様な主体の連携・協働を進めています。
- 少子高齢化や転出超過などにより人口減少が進んでいる青森県ですが、福祉や教育、まちづくりなど様々な分野で活動するNPOや地域団体が、安心して暮らせる地域づくりのため、日々地域の課題解決に取り組んでいます。
- そこで、活動のステップアップに挑戦したいNPOや地域団体の活動基盤強化と、企業等で働く現役世代をはじめ社会貢献をしたいと考えている方々の参加、両方を実現する「プロボノ」の取り組みを青森県内に普及させていくため、短期間でプロボノ体験ができる『青森プロボノチャレンジ』を開催しました。

1.2 事業概要

参加募集期間	支援先団体 2019年5月15日（水）～6月24日（月）
	プロボノワーカー 2019年6月14日（金）～8月5日（月）
プロボノ活動期間	2019年8月30日（金）～10月26日（土）
支援先団体	5団体（営利を目的とせず社会貢献活動を行い、青森市及び三八・上十三・下北地域で活動するNPO・任意団体・地域活動団体等）
プロボノワーカー	23名（ビジネス・サービス業、保険業、小売業、福祉サービス業等の企業人、自営業、自治体職員、子育て中の女性など様々な業種・年代の方々）
費用	参加無料（交通費、通信費、食費は参加者負担）
主催	青森県環境生活部県民生活文化課
企画・運営	特定非営利活動法人サービスグラント

1.3 プロボノとは

職業上のスキル・経験等をボランティアとして提供し、
社会課題の解決に成果をもたらすこと

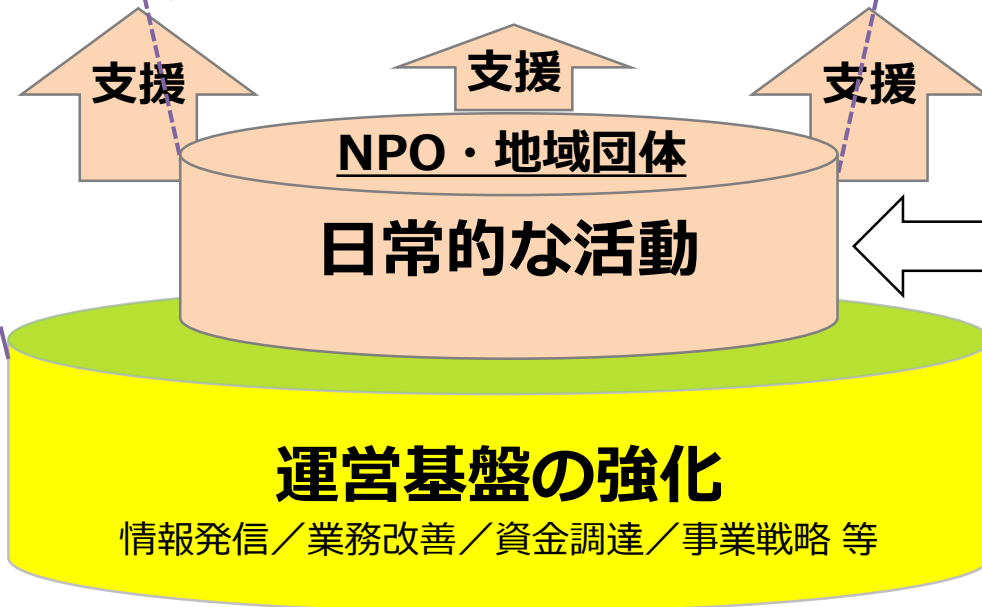
Pro	For	~のために
Bono	Good	善・いいこと
Publico	Public	公共的な

語源はラテン語のPro Bono Publico
(公共善のために) という言葉です

1.4 プロボノによる支援の位置づけ

プロボノにより、団体の「**運営基盤の強化**」につながる支援を通じて、社会課題解決を後押ししていきます。

当事者・受益者・ニーズを持つ人



既存のボランティア支援

- ・ 広報誌等での紹介
- ・ 活動場所の提供
- ・ ボランティアスタッフの仲介
- ・ 活動費補助 等

効果的な連携

プロボノによる支援

2. 青森プロボノチャレンジについて

2.1 全体の流れ

2.2 プロボノチャレンジの特徴

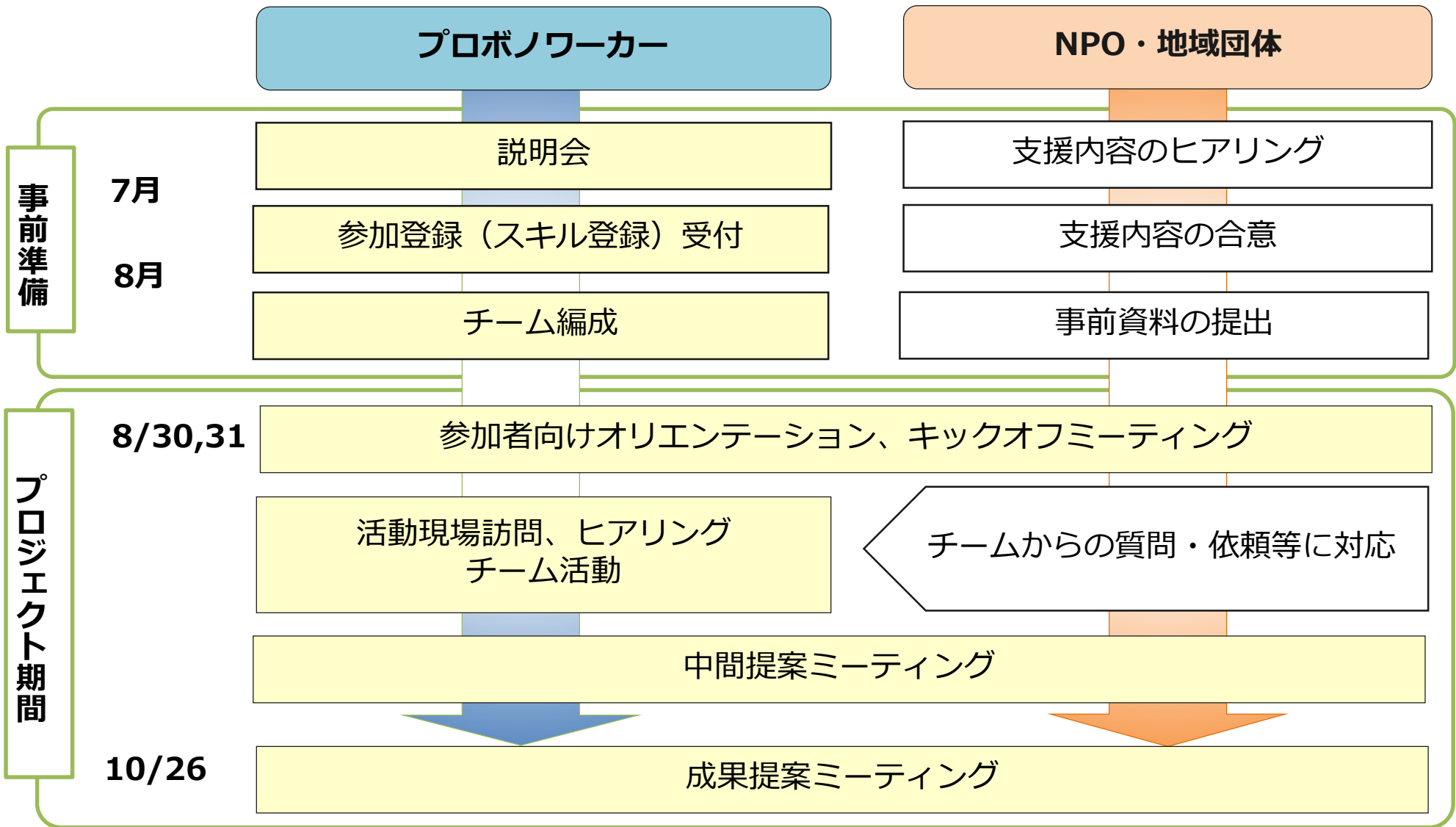
2.3 目標を定めた「プロジェクト型支援」

2.4 広報・募集の取り組み

2.5 団体ヒアリング、プロボノワーカー説明会

2.6 ママボノの取り組み

2.1 全体の流れ



2.2 プロボノチャレンジの特徴

プロボノワーカーが使う時間は、メールのチェックやウェブの閲覧なども含め、週3～5時間程度が目安です。

活動は5人前後のチームで取り組み、プロジェクトの進行ノウハウをまとめたガイドブック「進行ガイド」、事務局によるオンラインサポートもあります。

日頃忙しい方でも、無理なく参加できる仕組みづくりを目指しました。

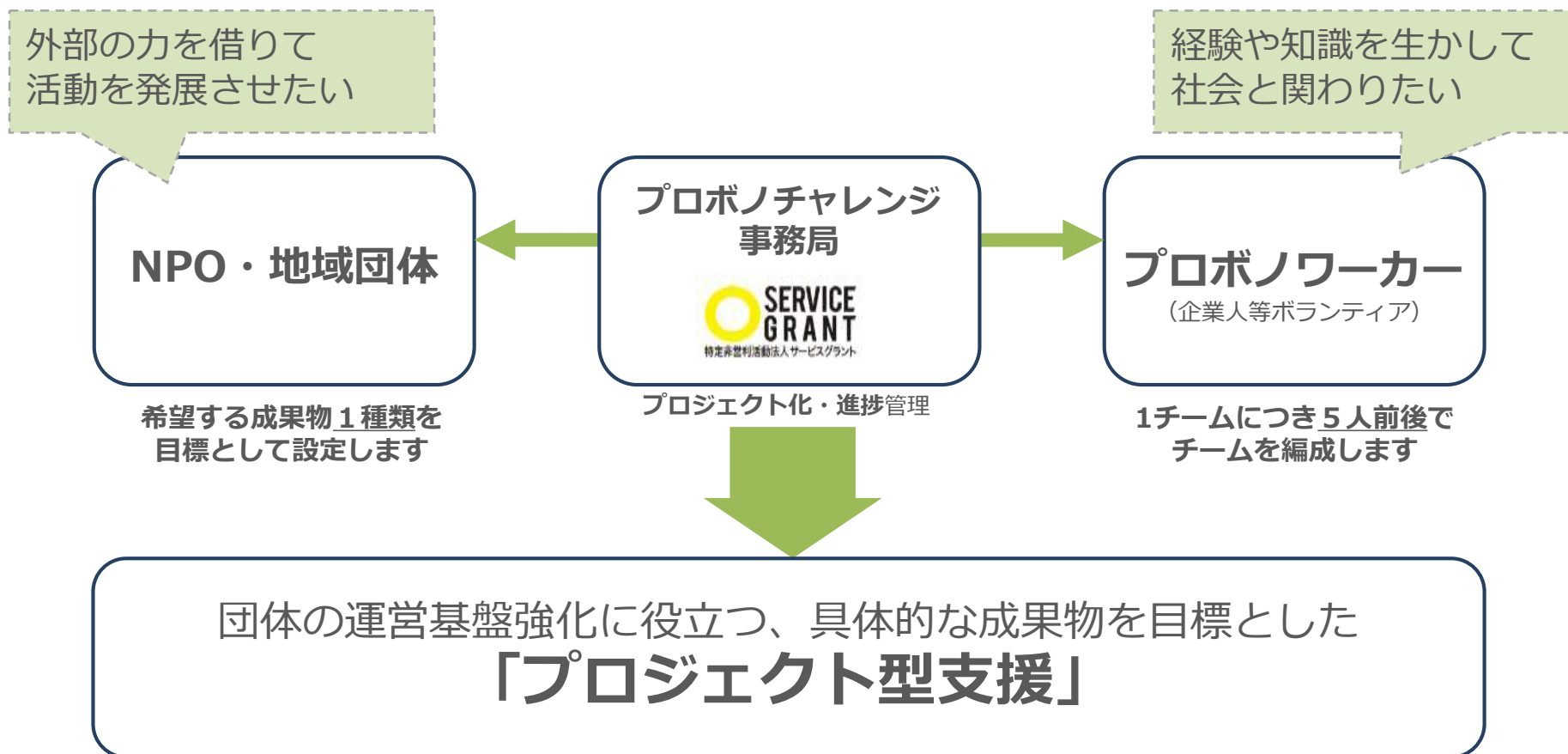
週**3-5**時間

チーム
で取り組む

進行を支える
ツール
が充実

2.3 目標を定めた「プロジェクト型支援」

「プロジェクト型支援」は、支援する側・される側の双方が、最も効果的に連携できるように、目標を明確に設定し、具体的かつ実用性の高い成果物を提供します。



2.4 広報・募集の取り組み



ウェブサイト (青森県庁・サービスグラント)



Facebook (あおもりNPOガーデン・サービスグラント・ママボノ)



説明会案内チラシ



参加募集資料 (団体向け、プロボノワーカー向け)

1. プロボノとは?
2. サービスグラントとは?
3. 青森プロボノチャレンジについて
4. 青森プロボノチャレンジの流れ
5. 支援先のご紹介
6. グループワーク、質問タイム

ほか、説明会の参加者募集をactivo、ジモティー、ボランティアプラットフォーム、Yahoo!ボランティアのウェブサイトで行いました。

2.5 団体ヒアリング、プロボノワーカー説明会

団体ヒアリング

八戸市内、青森市内にて、5団体からヒアリングを行いました。

主に団体の活動や将来像、課題などについて伺いました。その後、プロボノで支援する内容について調整を行い、「プロボノプロジェクト基本情報シート」にて支援内容を支援先団体と決定しました。



プロボノプロジェクト基本情報シート

プロボノワーカー説明会

八戸市「八戸ポータルミュージアムはっち」にて、2回開催し、30名が参加しました。

- ・ 7月19日（金） 18時30分～20時 16名参加
- ・ 7月20日（土） 10時～11時30分 14名参加

参考) 2018年度プロボノワーカー説明会 26名参加

7月25日（水） 18時30分～20時 15名参加 於弘前市

7月26日（木） 18時30分～20時 11名参加 於青森市



2.6 ママボノの取り組み

「ママボノ」は、育休復帰や再就職など再び仕事への一歩を踏み出すママのためのプロボノです。2018年度に続き、今年度も「NPO法人子育て応援隊 ココネットあおもり」とともに、「女性が自信を取り戻すきっかけ、交流の場づくり、復職や社会参加に向けたプログラム」としてママボノに取り組みました。ココネットあおもりが参加メンバーを呼びかけ「ママボノチーム」を編成、プロジェクト進捗をサービスグラントと共に見守りました。



ママボノ
mamabono



ママボノは主に日中に活動します。お子さん連れでいける打合せスペースを借りたり、団体の活動見学もお子さん連れで行いました。今回は育休中のパパも参加しました。

3. 支援先と成果

3.1 支援先一覧

3.2 プロジェクト内容と成果

- ① NPO法人 循環型社会創造ネットワーク（八戸市柏崎）
- ② 「親の時間」あおもり（八戸市下長）
- ③ はちのへ女性まちづくり塾生の会（八戸市小中野）
- ④ NPO法人 コミュサーあおもり（青森市港町）
- ⑤ NPO法人 婆娑羅凡人舎（青森市浪岡）

3.1 支援先一覧

	所在地	支援先団体	支援内容
1	八戸市	NPO法人 循環型社会創造ネットワーク	事業運営の方針づくりのための課題整理
2	八戸市	「親の時間」あおもり	団体の活動紹介リーフレット
3	八戸市	はちのへ女性まちづくり塾生の会	活動継続のためのアンケート調査
4	青森市	NPO法人 コミュサーあおもり	生徒募集のためのフリースクール説明資料
5	浪岡町	NPO法人 婆娑羅凡人舎	イベント案内のホームページ作成



8/30、8/31 参加者向けオリエンテーション、支援先団体とのキックオフミーティングの様子

3.2 ①NPO法人 循環型社会創造ネットワーク（八戸市柏崎）

● 団体の活動内容

市民、行政、高等教育機関及び地域企業等と連携し、温室効果ガス削減のためのエネルギー消費効率の改善、低炭素エネルギー源の導入及び環境・エネルギー教育等への支援を行っています。



● 支援内容

事業運営の方針づくりのための課題整理

支援先団体の会員にアンケート調査を行い、インタビュー可能な方からは個別ヒアリングも行いました。

プロボノ活動で得られた会員アンケートと個別ヒアリングの内容を、団体への期待や課題認識としてまとめ、「成果報告書」として今後の事業運営の方針を提案しました。

● 成果物



▲成果報告書

3.2 ①NPO法人 循環型社会創造ネットワーク（八戸市柏崎）

● プロボノ活動の様子



キックオフミーティング



成果提案ミーティング



成果発表

● プロジェクト進捗

このプロジェクトには、トウルージオ株式会社から、企業の地域貢献の一環として地域貢献に興味のある社員5名が参加。チームワークはスタートからスムーズでした。キックオフミーティングでは、支援先の活動や課題を確認し、プロジェクトがスタートしました。

ヒアリング調整に入るところで、支援先団体から「まずは全会員に対してアンケートを取ってほしい」という依頼があり急遽方針を変更。アンケートの内容を整え支援先と調整し、支援先会員にアンケートを送付しました。その後個別ヒアリングも行い、最後に成果提案ミーティングを実施。

チームメンバーは本業も忙しい中、スケジュール通りにいかない面もありましたが、会員の方の生の声を報告し、今後の活動に役立てていただけた提案ができました。

3.2 ② 「親の時間」 あおもり (八戸市下長)

● 団体の活動内容

親同士でお互いの気持ちや話を聞きあう活動「聞くことを身に着けるクラス(月2回6か月間)」を運営、参加者の気持ちを受け入れ、傾聴することを大切に、2005年より活動しています。



● 支援内容

団体の活動紹介リーフレット

クラスへの参加者増を目的としたリーフレット作成。活動体験や、スタッフや参加者ヒアリングを通してリーフレットの掲載要素や情報を集めました。

そうした生の声を「親の時間」のミッションや活動内容、活動参加イメージをもちやすい形にまとめました。

● 成果物



▲団体の活動紹介リーフレット

3.2 ② 「親の時間」 あおもり（八戸市下長）

● プロボノ活動の様子



キックオフミーティング



個別ヒアリング



中間提案ミーティング



成果提案ミーティング

● プロジェクト進捗

チームは、メンバーの顔合わせとなる「オリエンテーション」で、プロジェクトを円滑に進めるための役割分担やコミュニケーションツールについて話し合いました。キックオフミーティングでは団体の現状や課題のヒアリング、成果物の確認やすり合わせを行いました。

次に支援先団体の活動を参加体験。参加したメンバーからは「私も自然と涙がでたり笑ったりしていました。見るだけではなく体験してみてよかった。」と嬉しい感想がありました。

チームは成果提案直前まで何度もチームミーティングを重ねて、成果物の品質を高めていきました。「一人でも多くの子育て中の方々に、「親の時間」の活動内容や魅力を知り、感じてもらい、参加（体験）してもらえること、そして、楽しく子育てが出来る環境づくりにつながることを期待しています。」とリーダーからコメントをいただきました。

3.2 ③はちのへ女性まちづくり塾生の会（八戸市小中野）

● 団体の活動内容

2003年から活動を開始。現在は、「シニアがいきいき活動できる会」を目指して、主に「消費者啓発活動事業」「まんでいはっぴいカフェ事業」の2つの活動を行っています。



● 支援内容

活動継続のためのアンケート調査

持続可能な活動とするための調査を実施。「参加者向けのアンケート」から、講座内容への満足度が高いことがわかりました。そして、依頼主やスタッフへのヒアリングを重ね、活動を継続的に運用していくための「プロボノチームの仮説」と「収益化に向けた提案」を「成果報告書」としてまとめました。

● 成果物



▲ 成果報告書

3.2 ③はちのへ女性まちづくり塾生の会（八戸市小中野）

● プロボノ活動の様子



チームミーティング



現場見学



個別ヒアリング



成果提案ミーティング

● プロジェクト進捗

初日の「キックオフミーティング」から、アンケート調査に向けた現場見学の日程や個別ヒアリングの実施についても話し合うなど、具体的なスケジュールや調査方法について打合せができました。活動現場体験では、支援先団体が行う「出前講座」を見学。悪徳商法や詐欺の被害防止の啓発活動に取り組まれている姿に直接触れました。また、出前講座の依頼主や運営メンバーの方からもお話を伺いました。

中間提案ミーティングを経て、さらに良い提案とするため、「出前講座」を依頼している方から、普段主催しているイベントや参加者、支援先団体とのかかわりや期待など、様々なことをヒアリングしました。成果提案ミーティングでは、これまでのプロボノ活動を振り返るとともに、収益化に向けたディスカッションを行いました。

3.2 ④NPO法人 コミュニサーあおもり（青森市港町）

● 団体の活動内容

青森を元気にするため、結婚支援事業とフリースクール事業を行っています。「あおもりサニーヒル」は、青森県初のフリースクールとして2018年度にスタート。初年度は、10～18歳前後の10名の生徒が通い、全員が卒業し、復学や大検受験などを目指しています。



● 支援内容

生徒募集のためのフリースクール説明資料

フリースクール事業の自立・安定・継続を目指して生徒確保をするために、会員・スタッフ・保護者など重要なステークホルダーから個別ヒアリングを重ねました。そして、成果物として、A3両面の「総合リーフレット」のほか、ターゲット別のA4片面のリーフレットも3パターン（子ども用、親用、支援者用）作成しました。

● 成果物



▲総合リーフレット



▲対象別リーフレット

3.2 ④NPO法人 コミュサーあおもり（青森市港町）

● プロボノ活動の様子



キックオフミーティング



個別ヒアリング



中間提案ミーティング



成果提案ミーティング

● プロジェクト進捗

チームメンバーの顔合わせの後、チームと団体の「キックオフミーティング」では、ともにステークホルダーの洗い出しや、個別ヒアリングでご協力いただけそうな方を抽出しました。

次に、あおもりサニーヒルの活動現場を見学。その後、会員やボランティアスタッフ、保護者からも個別ヒアリングを行い、フリースクール事業が抱える現状と課題、団体と関わった経緯や思い、通ってよかったことや、変化などを深く伺うことができました。

成果提案ミーティングではより良い成果物を目指した意見交換をし、修正したものを後日納品。チームリーダーからは「フリースクールに対する現状、必要性、そして自身の思いを聞き、理解を深められたことが、私たちプロボノチームにとっての一番の成果、収穫だったと思います。」とコメントをいただきました。

● 団体の活動内容

「中世の館」の指定管理を請け負うことになり12年目。子どもたちに「浪岡はいい街だ！」と胸を張って故郷を語ってもらえるよう、「浪岡城落城記念やぶこぎ大会」「雪女コンテスト・津軽伝説」等を行っています。



● 支援内容

イベント案内のホームページ作成

団体ヒアリングを通して、活動への思いやホームページの掲載情報やなどを聞き、実際に使用しているパソコンや環境も確認。チームミーティングを重ねてホームページを作成しました。また団体自身が更新していけるように「マニュアル」も納品し、今後の活用についてもディスカッションを行いました。

● 成果物



▲ホームページ

<https://basara-bondosha.jimdosite.com/>



▲マニュアル

● プロボノ活動の様子



キックオフ事前ミーティング



現場見学・ヒアリング



チームミーティング



成果提案ミーティング

● プロジェクト進捗

初日は、午前中にオリエンテーション、午後には支援先の方とキックオフミーティングを実施。お子さんをスタッフが見守るなか、「ママボノ」プロジェクトがスタートしました。

現地訪問では、地域のミニ運動会の見学と団体3名へのヒアリングを実施。ホームページに載せてほしい情報や団体の活動への思いなどをお聞きし、実際に使用しているパソコンなども確認しました。ウェブのコンセプト整理や画像検討など、チームミーティングも重ねました。

成果提案ミーティングでは、完成したウェブサイトをご確認いただき、今後の活用についてディスカッションをしました。チームリーダーからは「プロボノ活動で“大人の社会見学”をしたなあと感じています。これを機に色々な活動へ、参加したり関わっていただけるといいなあと思えるプロジェクトでした」とコメントをいただきました。

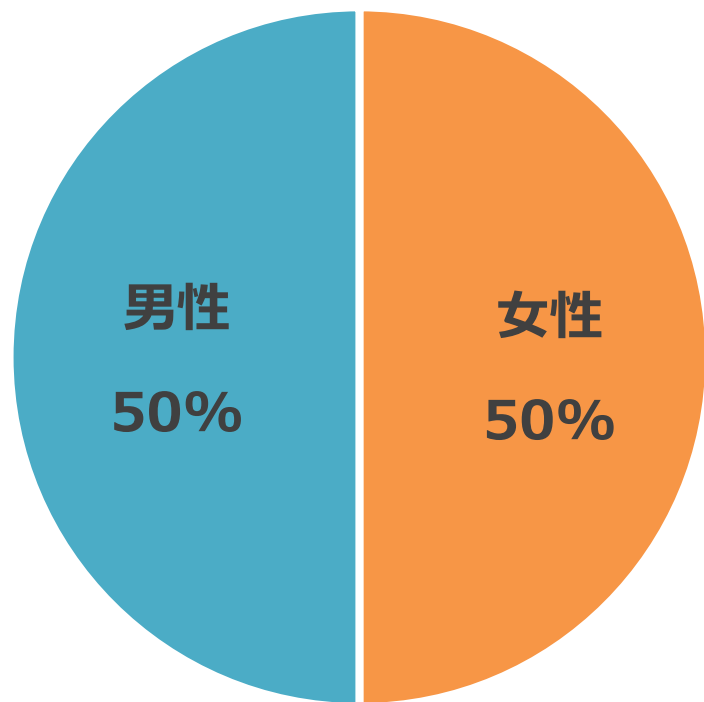
4. プロジェクト後の変化や影響

4.1 プロボノワーカーのアンケート結果からみる変化や影響

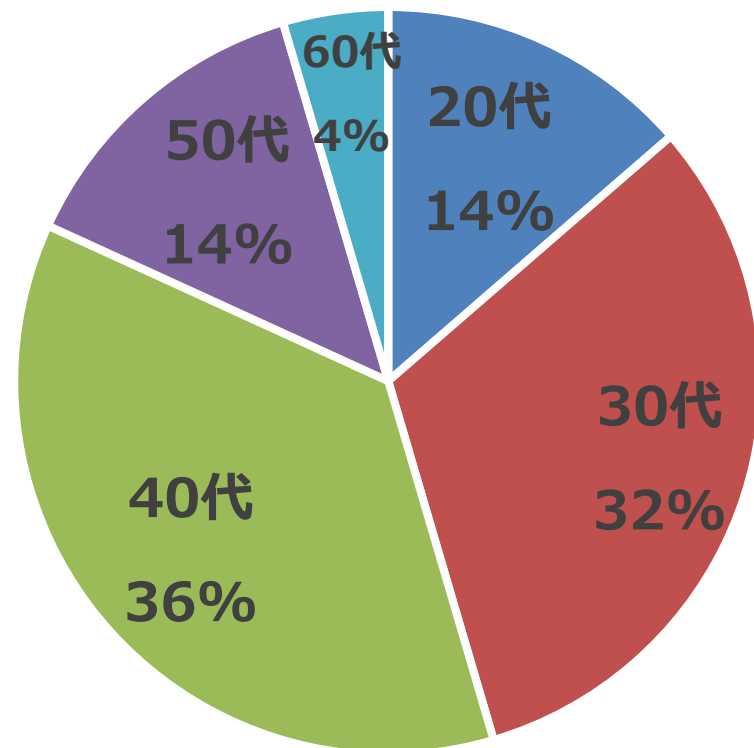
4.2 支援先団体のアンケート結果からみる変化や影響

4.1 幅広い年代からプロボノに参加

●性別



●年代



対象者：プロボノワーカー参加者23名
告知方法：紙、電子メール
回答期間：2019年10月26日～2019年11月18日

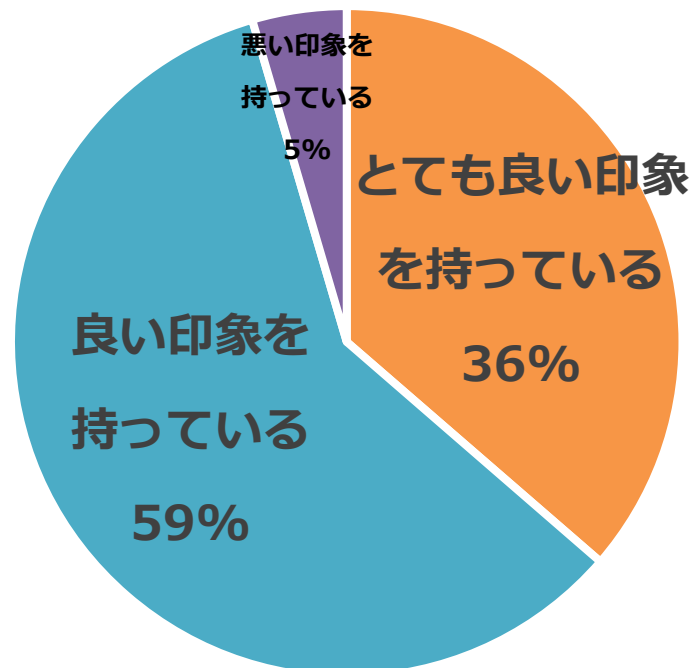
回答方法：紙、ウェブフォーム
回答数：22件（96%）

4.1 95%のプロボノワーカーが参加経験に良い印象

95%のプロボノワーカーが参加経験に対して良い印象を持っており、82%のプロボノワーカーが成果物に対して満足しています。

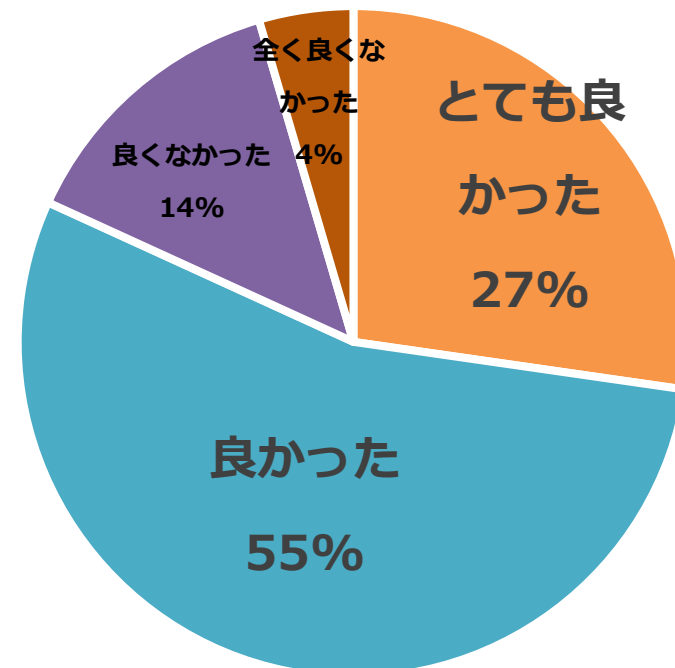
●参加経験

95%が「良い印象」



●成果物の品質・満足度

82%が「良かった」

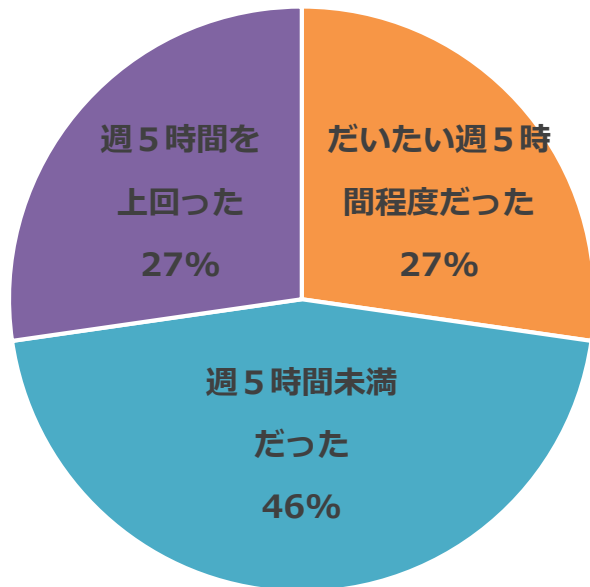


4.1 プロジェクト型支援もおおむね好感触

サービスグラントのプロボノは「プロジェクト型支援」の形を取っています。特徴は3点。「仕事と両立可能な時間・期間（週5時間×2カ月間）」「役割と多様性のあるチーム」「支援先の成長につながる具体的な成果物」です。

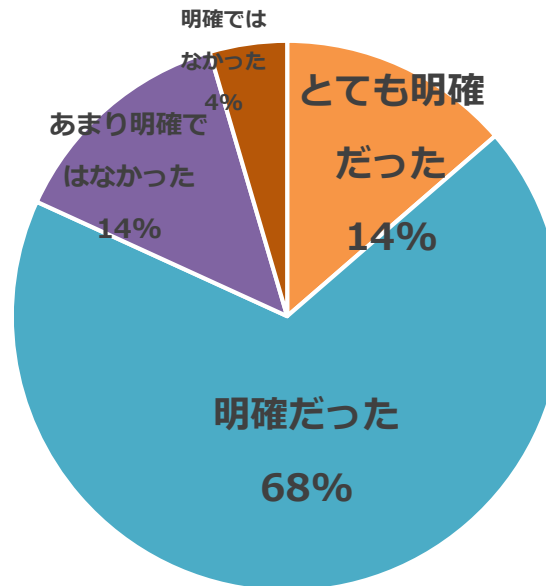
● 1週間の平均作業時間

73%が「週5時間程度・未満」



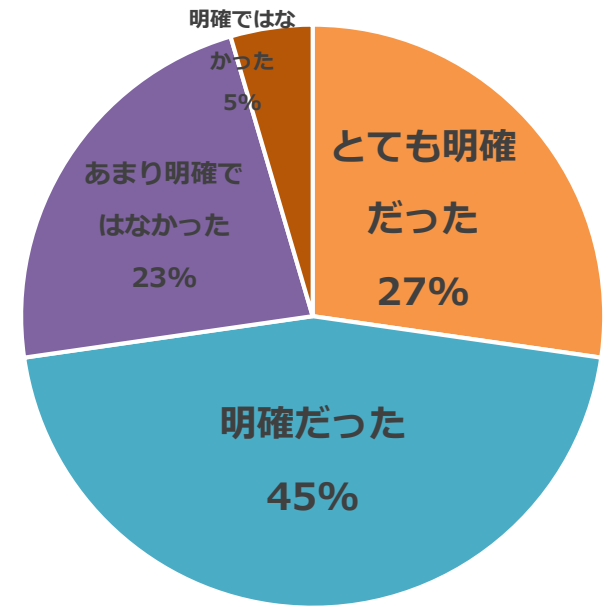
● 役割や作業内容の明確さ

82%が「明確だった」



● 目標設定の明確さ

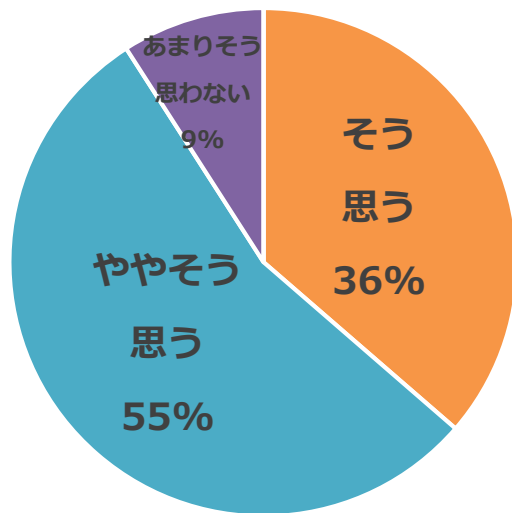
72%が「明確だった」



4.1 プロボノ経験者の考え方や生活への変化・影響

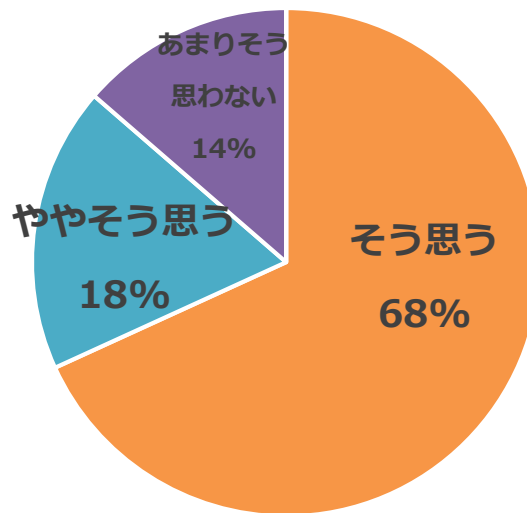
● 社会問題やNPO・地域団体に対する見方や考え方が変わった

91%が実感



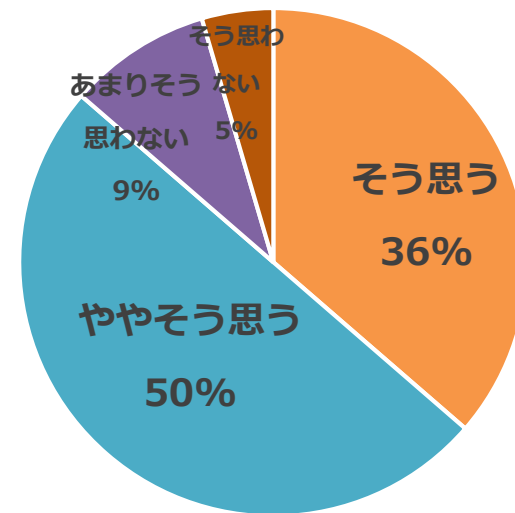
● 自身の視野が広がったり、人間的成長につながった

81%が実感



● ボランティア活動に関する興味関心が高まった

81%が実感



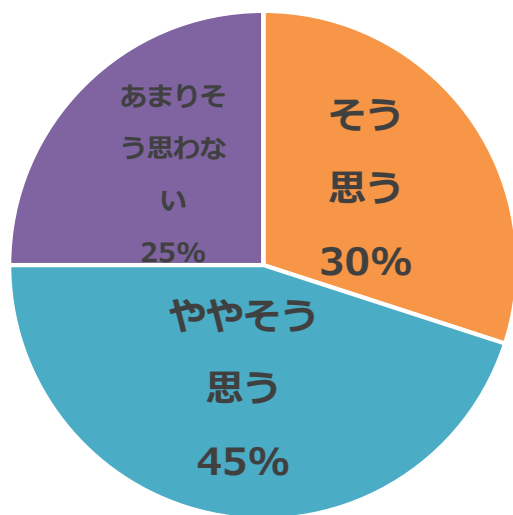
具体的なエピソードや変化として、次のコメントをいただきました。

「支援先の取り組み、イベントに今後参加してみようと思った。自分自身も周囲に支援団体を周知したいと思った。今後も関わっていきたいと感じた。」 「Iターン者なので、福祉施設や町内会そのものがとても新鮮でした。普通に仕事をして生活しているだけでは絶対行かないような場所に行くことができ、よかったなと思います。」 「このチャレンジに参加しなければ出会うことのなかった人たちと出会えたし、支援先の活動内容を知って、知らなかった世界を知ることができた。」

4.1 プロボノ経験者の仕事への変化や影響

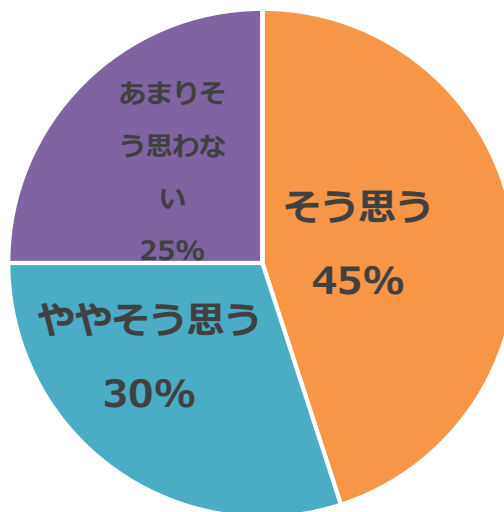
●今の仕事に生かせる有意義な経験を得ることができた

75%が実感



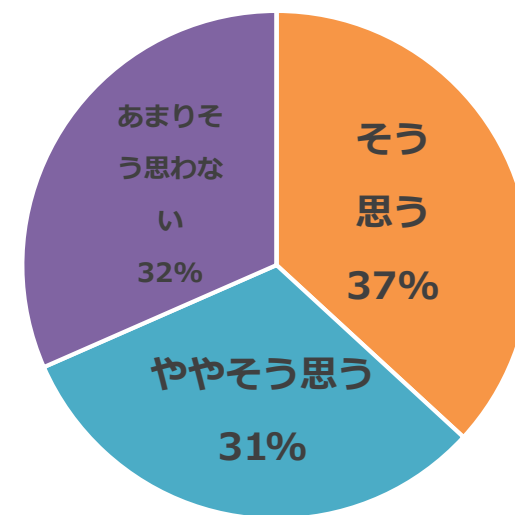
●自分の専門性やスキルを再認識することができた

75%が実感



●仕事で新しい取り組みにチャレンジしたいと思った

68%が実感



具体的なエピソードや変化として、次のコメントをいただきました。

「WEB作成を初めて触ってみたが、今後、仕事の中で挑戦できると思った。職業経験のなかで新しいスキルが身についたと思った。」 「またリーダーやってみたいように感じている。もっと何かできたのではないのかと色々感じているため、再度チャレンジしてみたい。」 「リーフレット作成というミッションを経験したことは、自分の仕事でもいつか役立つような気がする。」

4.1 あなたにとって青森プロボノチャレンジとは？

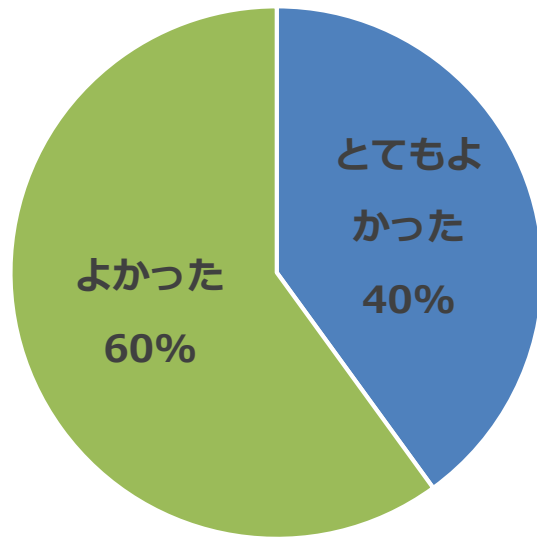
- ✓ 新たな見方
- ✓ 刺激
- ✓ 勉強
- ✓ 協働
- ✓ 共有と理解
- ✓ 新しい出会い
- ✓ 企業の社会参加のきっかけ
- ✓ 社会、人とのつながり。自分磨き。社会参加。
- ✓ 自分のスキルを少しでも生かされるような場。
- ✓ 学生時代の文化祭のように感じました。調べ、準備し、作って、発表。楽しかったです。
- ✓ 未知の領域へのチャレンジ
- ✓ 人生経験の一ページ。視点の変換。
- ✓ 久しぶりに悔しさを感じたPJでした。また挑戦したいです。
- ✓ たくさんの人の力がひとつになる素晴らしい機会
- ✓ 団体さんを改めて輝いて貰う為のサポート役！
- ✓ 新たな出会いと新しい世界への旅のような感じ
- ✓ 「得意なこと」「自分ができること」を活かせる場所。苦しいときや大変な時もあるけど、最後は充実感と支援先団体からの喜びをもらえました。

さまざまな刺激や楽しみ、人との出会いがあり、スキルを活かして充実感を得られる、「新しい世界への旅」になりました

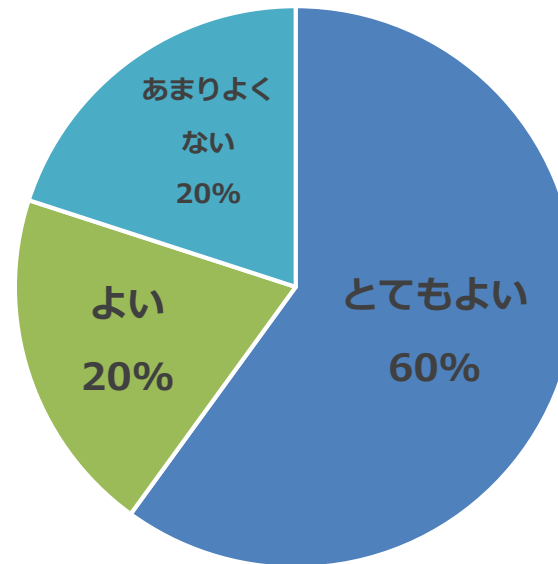
4.2 すべての支援先団体が良い参加経験を得ました

すべての支援先団体（5団体）が参加経験を良かったと回答し、成果物の品質・コンセプトについても支援先団体が納得できるものとなりました。「しっかりと意思を伝えて汲み取っていただけているのでとても満足です。」と感謝の声をいただきました。

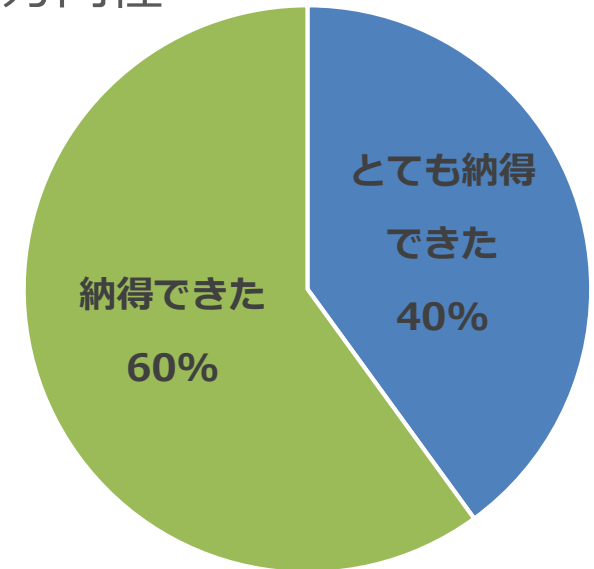
●参加経験



●成果物の品質・満足度



●中間提案のコンセプト、方向性



対象者：支援先団体 5団体

告知方法：電子メール

回答期間：2019年10月27日～2019年10月31日

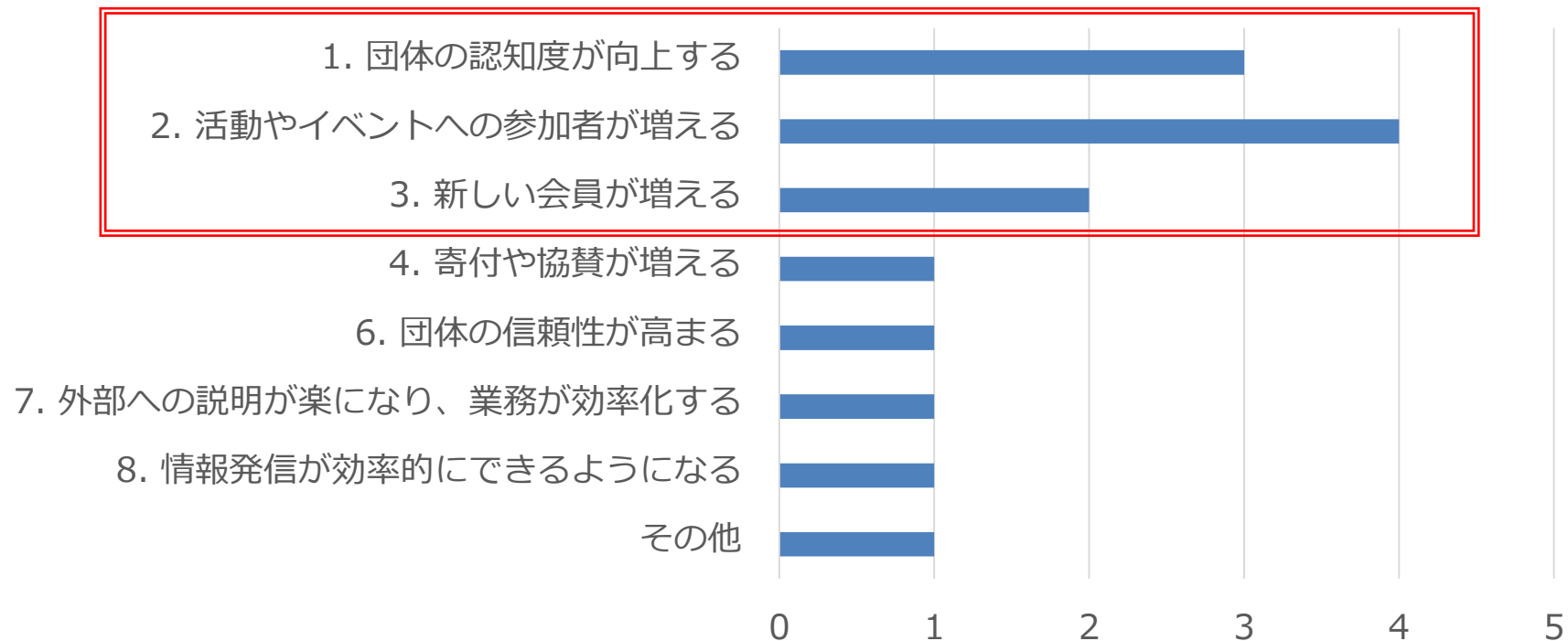
回答方法：ウェブフォーム

回答状況：5件（100%）

4.2 成果物による様々な効果が期待されています

プロボノで届けた成果物には、「団体の認知度が向上する」「活動やイベントの参加者が増える」「新しい会員が増える」といった効果が期待されています。

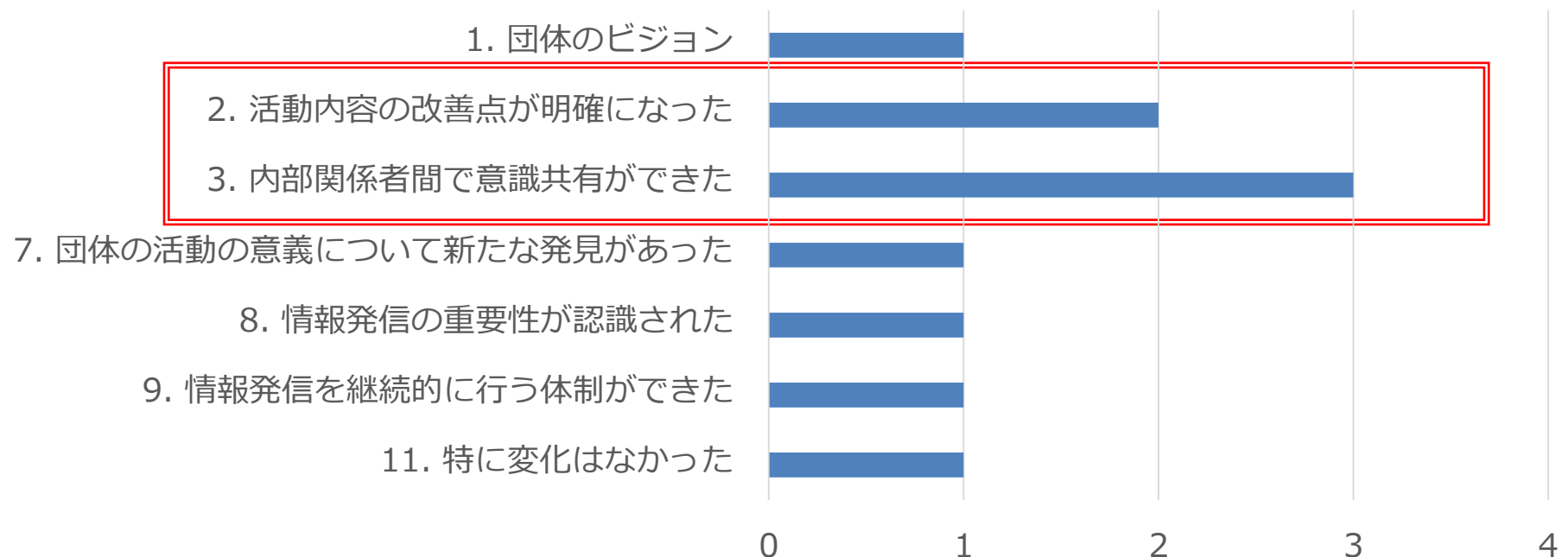
● 今回の成果物によって、どのような効果がもたらされることを期待していますか？



4.2 団体内部の意識にも様々な変化が起きています

特に、「内部関係者間で意識共有ができた」という声が3団体からあげられました。他にも、「活動内容の改善点が明確になった」「団体のビジョンが明確になった」「活動意義について新たな発見があった」「情報発信の重要性が認識された」などの変化が起きています。

- プロボノの支援を受けたことにより、団体内部の意識に変化はありましたか？



5. 特色と課題

5.1 青森プロボノチャレンジの特色

5.2 青森プロボノチャレンジの課題

5.1 青森プロボノチャレンジの特色

①プロボノワーカーと支援先団体の高い参加満足度

プロジェクト完了後のアンケートでは、プロボノワーカーの95%、支援先団体の100%から、「参加をしてよかった」という高い満足をいただいています。

②多様な主体の連携・協働の促進

青森プロボノチャレンジには、20代~60代まで幅広い世代の方が参加しました。また、一般的にボランティアは女性の参加割合が高いといわれていますが、青森プロボノチャレンジでは、男性・女性の割合も約半数ずつと、性別を問わず参加しやすい社会貢献活動となっています。

③地域との新しいつながりをつくる取組み

他のエリアに比べた青森プロボノチャレンジの特徴として、青森県への転勤者の参加、なかでもママボノでは転勤に同行した家族（妻）が地域参画する機会の1つとして活用できている点が挙げられます。また、県職員・市職員・福祉関係職員など、行政や公益活動をしている人が参加者の半数という高い割合を占めています。いずれの点も、地域における新しいつながりを作り、「青森県型地域共生社会」に向けた多様な主体の連携・協働を進める潮流の一つを生み出せていると考えることができます。

5.2 青森プロボノチャレンジの課題

①プロボノの認知度

プロボノ認知度は、首都圏でもようやく10%程と言われますが、青森県ではさらに低く、「プロボノ」のさらなる認知度向上が課題と考えられます。参加者・支援先の参加のみならず、この活動への理解・共感を広げるために、これまでの取り組みやその価値、参加経験者の生の声をお届けするなどの施策が必要になると考えられます。

②よりよい成果物となるプログラム設計

プロボノの成果物はプロジェクト完了後、団体が活用していくことで団体の運営基盤強化につながります。その成果物を作り上げていくプロボノチームが、限られた期間の中でスムーズにプロジェクトを行えるよう、2年間の実施の中でもプログラム設計を見直してきました。さらに今後は、チームと団体のコミュニケーションの円滑化や、チームメンバーが主体性をもって成果物を決めるような仕組みを作るなど、一層の改善の可能性があると考えられます。

③プロボノを継続実施できる体制づくり

より1歩進んだ「青森県型地域共生社会」に向けて、青森県内の団体が、プロボノを継続的に運営できる体制の構築が課題と考えます。今後は県内団体へ実施体制を計画的に引き継いでいけるような団体養成の取り組みも必要になると考えられます。

報告書作成：

「平成31年度青森プロボノチャレンジ企画運営業務」受託事業者

特定非営利活動法人 サービスグラント

代表理事 嵯峨 生馬

事務局 小林 智穂子、中川 寛允、樫尾 直美

【連絡先】

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-2-10 中里ビル4F

電話番号: 03-6419-4021

電子メール: info@servicegrant.or.jp